



特集

【学生広報スタッフ企画】

2012年度 関西大学統一学園祭



みんなで一緒に考えよう。【関大誌上教室】
関大生の健康観

【VIVA!学び場】人間健康学部

「専門演習2 スポーツと健康コース」

【なるほど・ザ・関大!】

キャンパスの「建物」からみる関大の歴史

【今月のシンクさんアクトくん 関大生の友の輪】

文学部3年次生 中村友彦さん

【働く関大人】家庭用品業界／営業

ユニ・チャーム株式会社 村上史侑さん

安田忠典 准教授

関西大学統一学園祭

11月1日(木)～11月4日(日)の4日間、千里山キャンパスにて

『第35回関西大学統一学園祭』が開催されます。そこで今回は学園祭にクローズアップ。

実行委員長のインタビューや人気企画の紹介など、盛りだくさんでお届けします。

(今回の特集記事は学生広報スタッフが取材・執筆を担当しました。)

学園祭に新しい風と感謝の輪を

学園祭実行委員長へのインタビュー

今年の統一学園祭のテーマは「感謝祭 to ALL...」。「学園祭を通して、仲間や来場者はもちろん学園祭に関わる全ての方に感謝を伝えていきたい」と力強く語ってくれた学園祭実行委員長の谷洋佑さん。しかし、最初は委員長に候補するかどうか迷っていたそうです。そんな彼を突き動かしたのは、「もっと大学全体を巻き込んだ学園祭にしたい」という強い思いでした。

昨年12月に委員長になって以来、組織のトップとして委員会のメンバーに共通の意識を持たせたり、全員の納得が得られるよう事前準備を欠かさず行うことで委員会を引っ張ってきました。その結果、ゼミなどの企画も加わり、企画総数が昨年よりも増え、谷さんが描いた「大学全体を巻き込んだ学園祭」が見えてくるようになりました。

委員長になって約1年。「学生や企画を見た来場者が、心を動かされるような学園祭にしたい」という言葉に、委員長としての自信と学園祭の成功が垣間見えました。



統一学園祭実行委員会 委員長
谷洋佑さん
(化学生命工学部3年次生)

毎年大盛り上りの3イベントを運営する「統一企画構成委員会」をピックアップ!

統一企画構成委員会 委員長

関大生一人ひとりの笑顔が見どころ!

統一企画構成委員会は各学部の学園祭実行委員会からスタッフが集まり、学内と地域・社会をなぐ企画を作り、運営する団体です。「自己満足で終わらないよう、来場者が楽しめる企画を作っている」と語ってくれた委員長の宮森祐司さん。今年は今回紹介する3企画の他、フリーマーケット、有名アーティストによるライブ、後援者の計6つの企画を運営します。「関大生の一人ひとりの笑顔が見どころ。『学園祭』という独特の空間を味わってほしい」と宮森さんは熱く語ってくれました。



統一企画構成委員会 委員長
宮森祐司さん(経済学部3年次生)

K.U. ROCK FEVER10th

音楽で強める人とのつながり

「K.U. ROCK FEVER10th」はオリジナル曲を持ち、予選を突破したバンド6組が優勝を懸けて競う企画です。予選、本戦共に1口の方が審査をする本格的なもので他大学の学生も多く出場します。「伝統を受け継ぎ、進化してきた」と語ってくれた局長の速水絵理さん。今年はステージを見に来てくれた方々に出場する演者の楽曲が入った無料のコンピレーションアルバムを配布する新しい試みも行われます。「音楽で人とつながる」というテーマを掲げ、プロと学生、スタッフが一体となることを目指します。



統一企画構成委員会
K.U. ROCK FEVER 局長
速水絵理さん(法学部2年次生)

Kandai Dance Festival 2012

新しい3つの見どころに注目!

今年の「Kandai Dance Festival 2012」は10組の関大生が熱いダンスバトルを繰り広げます。「今年新しい企画が3つあり、そこが見どころです」と語ってくれたのは局長の水口奈美さん。参加者を2つのチームに分けて競う紅白戦や、各チームの代表が1対1で即興バトルをする「on1, DJ」を呼んでダンスとコラボする「フューメーション」は昨年にはなかった見どころです。また吹田市のゆるキャラ「すいりん」も登場し、地域交流も行われます。ダンスを通して来場者の方々とのつながりをより強くする企画です。



統一企画構成委員会
Kandai Dance Festival 局長
水口奈美さん(経済学部2年次生)

LAUGH&PEACE お笑い王決定戦2012

「お笑い×チャリティー」で笑顔あふれる学園祭に

今年で3年目となる統一企画構成委員会総合企画局が運営する「LAUGH&PEACE お笑い王決定戦2012」にはさまざまな思いが込められています。「LAUGH&PEACE」の本来メッセージ性のあるこの企画は、お笑いの本場大阪の関大生8組が競う中、チャリティー活動として被災地支援のための募金を行っています。局長の田内駿兵さんは「来場者の方には、お笑いを通して自分たちの『チャリティー』を行ってほしい」と語ってくれました。今年は「笑い」と「チャリティー」という人の温かきを感じられる企画とそうです。



統一企画構成委員会
総合企画局長
田内駿兵さん(経済学部2年次生)

学生広報スタッフおススメの3つのプロジェクト・企画を紹介!

エコトレイプロジェクト



左から
平松正朗さん(経済学部4年次生)
畑広紀さん(経済学部4年次生)
山口淳史さん(経済学部4年次生)
嶋崎拓海さん(政策創造学部3年次生)

エコで盛り上げる、「自分たちの学園祭」!

一度使っても、フィルムを剥がせばリサイクルできるエコトレイ。本学では初めての試みが11月3日(土)、4日(日)に行われます。プロジェクトメンバーである山口淳史さんは「当日トレイの回収などを行うボランティアも全て関大生が行い、自分たちの学園祭を主体的に盛り上げたい」と語ってくれました。畑広紀さんは当日のボランティアについて「単なるボランティアではなく、自分で考えて行動できる」という点に魅力を感じたそうで、大量のごみを減らせるというメリットだけにとどまらない意義を2人は教えてくれました。

また、学園祭実行委員会の模擬局長としてプロジェクトに携わる嶋崎拓海さんは「導入期ならではの苦労もあり、職員の方とも何度も話し合っ」と語ります。「協力してくれた人たちのためにも成功させたい」と、プロジェクトメンバーである

平松正朗さんが意気込むように、このプロジェクトは学園祭来場者への懸け橋となるはずです。



ワカモノチカラプロジェクト

ミサンガで被災地との“絆”をつなごう!

学園祭全日、濃風館前にて東日本大震災の復興支援学生団体ワカモノチカラプロジェクトが「マザーミサンガ」を販売します。マザーミサンガは、宮城県雄勝町の仮設住宅に暮らすお母さんたちが、漁の縄を直すための補修糸で作ったものです。一般的なミサンガは切れると願いがかなうといわれていますが、マザーミサンガはその逆で、頑丈で切れないことから、「絆」を意味しています。

今年11日で震災から1年8か月がたち、次第に震災に関する話題が少なくなってきましたが、代表の久保田勇次さんは「震災を風化させない」という思いで活動を続けています。「学園祭に出店することによって、私たちのように復興支援活動があるのだということを知ってほしい。そして、自分も明日から何

できないかな」と考えてもらいたいのですね。ミサンガはきっと、切れない「絆」で私たちと遠く離れた被災地をつないでくれるでしょう。



久保田勇次さん(社会安全学部3年次生)

パイ投げ企画

思い切りパイを投げてみんなで楽しみましょう!

数ある学園祭の企画の中でもひととき異彩を放つのは、スクーバダイビングサークルPRIMARE(プリマーレ)が運営するパイ投げ企画です。人形に向かって思い切りパイを投げるというこの企画は10年以上続く人気企画で、今年は改良を重ねた特製フリームでふわふわ感がさらに増し、例年以上にぎわいを目指します。「来場者の方に、僕たちと一緒に盛り上げて楽しい思い出をつくってもらいたい」と、企画メンバーで副代表でもある木村美貴さんが語ってくれた通り、パイを投げる他にも「髭ダンスのテーマ」に集って踊ったり、さまざまな仮装を施した企画メンバーと記念撮影をするなど、来場者を楽しませる要素が盛りだくさんです。老若男

女問わず、ぜひここで、一味違う体験をしてみたいかがでしょうか。



左から
木村美貴さん(社会学部2年次生)
米澤百香さん(文学部2年次生)



昨年度の様子

みんなで一緒に考えよう。

関大誌上教室

今回の誌上教室では、「健康の秋」ということで関大生の健康にクロズアップ。皆さんが普段の暮らしの中で、どれくらい健康に気を配っているのかを調査してみました。

【アンケート実施期間：8月10日～9月9日
対象：関大生 回答者数310人(男子42% 女子58%)
運動部(サークル含)所属30% 非所属70%
自宅74% 一人暮らし26%】

関大生の健康観

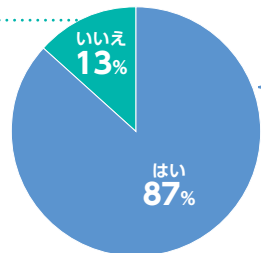
題字：多賀井 杏衣さん(文学部3年次生)

健康観

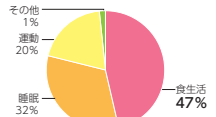
健康のために何か気を付けていることはありますか？

●理由は何？

今、自分は健康だと思うから。(商2・男)
自分の健康状態にあまり関心がないから。(社3・男)
もう少し年を取ってからでいいと思うから。(外1・女)
何をしたらいいかわからない。(外1・女)
いつかウチのオトンやオカンみたいに油物や肉を受け付けなくなると、今のうちに食べたいものを食べとくのが一番いい気がする。(シス理1・男)
面倒だから。(シス理1・女)



●特に気を付けていることは何ですか？



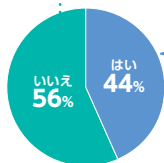
男女別でみると、食生活が女子は52%とだんトツ！自分の体型に関しての質問で、女子は51%が「太っている」「少し太り気味」と回答。女子の痩せ願望強い。

運動

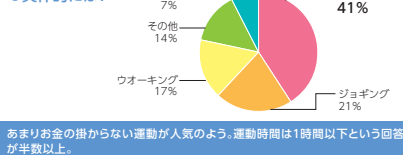
普段運動をしていますか？

●理由は何？

①時間がない ②機会がない ③面倒 という結果。
「運動しよう(したい)と思っていますか？」の質問には82%が「はい」と回答。



●具体的には？



あまりお金の掛からない運動が人気のよう。運動時間は1時間以下という回答が半数以上。

健康について気になることや、自分なりの健康法は？

学部学年	性別	コメント
法 1	女	自家栽培した野菜を中心に、バランスの取れた食事をしています。
法 3	男	菓子類は一切食べない、飲み物は水かお茶だけにし、カロリー計算をしています。
文 4	女	気にし過ぎないことです。
商 4	女	昼夜逆転していることが心配です。
社 3	女	一人暮らしなので、食生活をもっとバランス良くしたいが、アルバイトなどでできていないのが悩みです。
社 3	女	呼吸法が素晴らしいと本で知ったので、深い呼吸をするように日頃から意識しています。
社 4	女	新聞で「体は食べたものだけでできていく」という記事を読んでからは何だか怖くなり、以前より食生活に気をを使うようになった。
政経2	男	常にバンドのボールとしての意識を持ち、最高のパフォーマンスができるよう体作りをしています。
情 4	男	睡眠時間は1.5時間周期で取っている。
人間2	男	同じ運動ばかりだと筋肉に偏りが出てきてしまうため、部活以外の運動もするよう心掛けています。

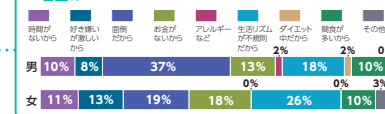
査では、運動の実践で半数以上が「いいえ」と回答しており、決して好ましい結果ではありませんでした。しかし、健康への意識は高いことも明らかとなり、今後の改善に期待したいところです。

健康への取り組み方に3つの体操というのがあります。「身体の体操」「頭の体操」「心の体操(ドキドキした心を運動させること)」です。身体・頭・心、いずれも使わないと資えてしまいます。皆さんには、スポーツ活動への参加など「身体の体操」はもちろん、勉強をする「頭の体操」、感動をする「心の体操」の3つの体操をバランスよく実践してほしいですね。

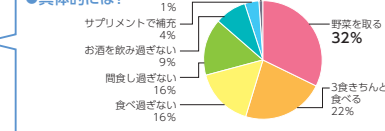
食生活

バランスの良い食事を取るよう心掛けていますか？

●理由は何？



●具体的には？



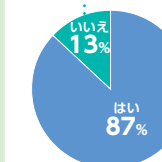
「普段、朝食を取っていますか？」の質問には、86%の人が「はい」と回答。しかし、「自宅生」と「一人暮らし生」で比較すると、自宅生が90%、一人暮らし生が73%と差が出る結果に。

睡眠

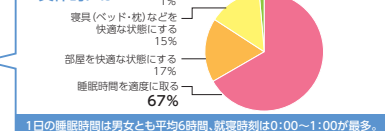
睡眠を取るよう気を付けていますか？

●理由は何？

男女とも多かった回答は ①生活リズムが不規則 ②忙しくて時間が取れない ③遊びたい など。



●具体的には？



1日の睡眠時間は男女とも平均6時間、就寝時刻は0:00～1:00が最多。

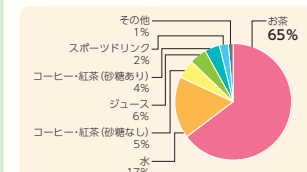
保健管理センター 石原正所長にインタビュー



女子学生は潜在的に貧血の人が多いようです。これは鉄分が不足していることが原因です。「疲れやすい」など感じる学生は、早めに保健管理センターを訪ねてください。男子学生はクラブ活動やアルバイトなどで忙しく、慢性的な睡眠不足である点が懸念されます。男女とも普段の生活では、糖分の多い飲み物を飲み過ぎないこと。そして規則正しい生活サイクルを維持して、できる範囲で健康に良いことを少しづつ取り入れていく姿勢が大切です。

普段、主にどんなものを飲んでいますか？

お茶がやはりだんトツ！ そんな中、甘味を含んだ「コーヒーマー・紅茶(砂糖あり)」と「ジュース」を日常的に飲んでいる人が、合わせて1割近くも・・・



座ったままでもできる簡単ストレッチ

アンケートで「体の中で凝っている箇所」を質問したところ、半数以上の人が、「首」「肩」と回答しました。そこで、教室や電車内でもできる、簡単ストレッチを紹介します。

首のストレッチ

①口は閉じてください。



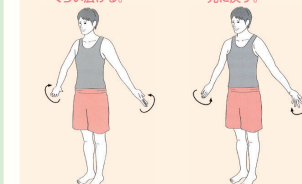
うつむいて両手で胸をおさえる。

両手を胸をおさえたまま、ゆっくりと頭を上に向ける。

肩のストレッチ

①両腕を横に45度くらい広げる。

③肩関節をゆっくりと元に戻す。



2. 親指を外側に向けて肩関節からねじります。そのまま10秒間キープ！

4. 親指を内側に向けて肩関節からねじります。そのまま10秒間キープ！

「まずはこれだけ！ストレッチ」(建太子出版)弘原海 剛教授 著

OPINION OF PROFESSOR

人間健康学部 弘原海 剛教授

3つの体操

今年の体育の日を前に、文部科学省が発表した「体力・運動能力調査」によると、特に運動をしない20代～30代女性が増えており、普段運動をしていない20代前半女性は、運動をする50代前半女性と同じ体力レベルらしいです。これは、高校以降での運動系部活離れが要因だそうです。さて、関大生はどうでしょうか？ 今回の調

次号のテーマは…「関大生 友達事情」

12月を迎え、クリスマスパーティーや忘年会など、友達と集まる機会も増えてくると思います。大学生の皆さんはどのように友達づくりをしているのでしょうか。

そこで12月号では、関大生の友達事情を調査します。

11月号「関大誌上教室」アンケートプレゼント当選者の発表について

今号の「関大誌上教室」アンケート「関大生の健康観」にご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。プレゼントの発表は、当選者のみ、インフォメーションシステム「個人伝言」で連絡します(10月29日までに通知予定)。

「関大誌上教室」のアンケートは次号以降も行う予定ですので、ご協力をよろしくお願いします。



家庭用品業界／営業

ユニ・チャーム株式会社 村上史侑さん

岐阜県立大垣北高等学校出身
2009年経済学部卒業



お客様の課題を解決するご提案で、
医療や介護の現場をサポートしています。

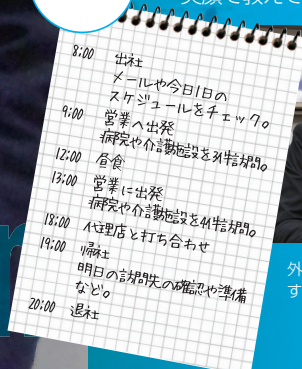
赤ちゃんからお年寄りまで、人々がさまざまな負担から解放されるよう、心と体を優しくサポートする商品を提供しているユニ・チャーム。村上さんはプロケア営業部門で、病院や介護施設に向けた大人用紙おむつの営業を担当。既存の取引先や新規のお客様に対して、医療や介護現場での排泄ケアに関するさまざまな課題を解決するコンサルティング営業を行っています。

「大人用紙おむつの良し悪しは、実際に身に着ける方の使用感や看護師さん・介護職員さんの使い勝手などに左右されます。そこで正しく身に着けていただくための勉強会を開催したり、当社がこれまでに蓄積してきた排泄ケアに関するデータを活用して、お客様にとってより最適な商品をご提案するなど、私たちの製品をご使用いただくメリットをご理解いただけるように心掛けています」。

今年で入社3年目、すでに100件以上の取引先を抱え、現場を飛び回っている村上さん。仕事にやりがいを感じる瞬間について「当社の商品に切り替えたおかげで“漏れなくなったよ”と言っていただけと素直にうれしいです。医療や介護の最前線で働いている人から直接いただいた感謝の言葉には、とても勇気づけられますね」。

そんな村上さんは学生時代、学園祭の実行委員を務め、3年次には実行委員長として活躍。「人はメリットだけでは動いてくれない。誠意を持って伝えなければ人の心は動かせない」という実行委員の活動を通じて得た教訓は、社会に出てからも役立っていると最後に笑顔で教えてくれました。

ある1日の
スケジュール



外回りなのでモバイルツールは必須。営業職だけに電卓も頻繁に使用するそうです。

Salesperson

VIVA!!

学び易



人間健康学部

「専門演習2 スポーツと健康コース」

安田忠典 准教授

人と人、人と自然との関わり合いを紡ぐ。

さまざまな体験を通じて「互いに尊敬し合う」ような人間の生き方や、日本文化の根底にある繊細な自然観について考察を深めていきます。

明治時代までの日本人は、自然とうまく関わり合いながら生きてきました。それから100年以上がたった21世紀の今、便利なツールに囲まれた暮らしの中で、「自然との関わり」や「人と人が関わり合い、支え合いながら生きていく」という日本人の情緒の基層となっていたものが失われつつあります。安田先生のゼミはこれらを踏まえた上で、「人や自然との関わりをいかにして紡ぐのか」を実践的に学ぶことを目的に、体験学習を中心とした授業を実施。堺キャンパスのプロジェクト・アドベンチャー（体験学習エリア）を使用した、体を動かしながら他者とコミュニケーションを図るグループワークや、和歌山県田辺市熊野本宮大社での自然体験・生活体験を目的とした合宿など、人や自然との関わりを通じて、ゼミ生たち自らが考え行動するきっかけを提供しています。

地域との連携による「支え合い」「関わり合い」を大切にしている人間健康学部。同ゼミでも、ゼミ生たちが地元・堺市の高校生にプロジェクト・アドベンチャーをレクチャーする授業や、堺市の小学生を熊野本宮大社でのキャンプに引率する活動などを実施。地域連携による「人や地域、自然との関わり」の中から、自分や他者を大切にする気持ちや、みんなで支え合う協調性、互いを信頼する心を育てています。

こうして各々の学生たちが体験したことは、振り返りという形で文字に起こしてデータとして蓄積。最終的にはこれら全ゼミ生のデータを編集して、グループ研究として発表します。こうした各種グループワークや合宿、データの編集など、研究に費やす時間はとても多いですが、「これから社会に出て生きていく上で大切なことがたくさん学べます」とゼミ生たちは多くのことを吸収しています。



三原沙知子さん(3年次生)

みんなと同じ目標に向かっていろいろな課題にチャレンジするので、自然と団結力や協調性が身に付きます。自由な雰囲気のゼミですが、常に自主性が求められますね。



畦崎康平さん(3年次生)

さまざまな体験学習から、コミュニケーションの大切さや難しさを学んでいます。常に体を動かしながらの授業なので、飽きないですしとても楽しいですね。



人間健康学部 安田忠典 准教授

みんな協力して場を作り、同じ体験をしていても、一人ひとりが違う感じ方、考え方をします。それらをみんなで共有することで、自分とは違う考えに対する許容量が大きくなります。これを繰り返すことで、他人を尊重できる人間へと成長してほしいですね。



キャンパスの「建物」からみる関大の歴史

創立以来、時代の要請や社会の変化に合わせて進化を続けてきた関西大学。その進化に呼応するように、キャンパスも姿・形を変えてきました。そこで今回は、キャンパスの建物にクローズアップ。その変遷を追いかけてみました。

千里山キャンパス

今から約半世紀前と現在の千里山キャンパスの航空写真を見比べてみましょう。当時はキャンパス周辺には民家も少なく、名神高速道路も開通していませんでした。キャンパスの建物に目を向けてみると、現在、総合図書館や尚文館が建っている場所にはグラウンドがあり、第3学舎も建設されていませんでした。



昭和32年ごろ



現在

正門

キャンパスの顔である正門も時代とともに様変わりしてきました。昔は第1学舎に通じる道にあった正門を1952年(昭和27年)に現在の場所に移動させました。写真は1965年(昭和40年)ごろの写真ですが、現在の正門と比較してみるとその違いは一目瞭然です。



昭和40年ごろ



現在

簡文館(登録有形文化財)

昔とほとんど変わらぬたたずまいを見せてくれるのが、関西大学最古の建物で現在は博物館などに使用されている簡文館です。写真の円形建物は1955年(昭和30年)に増築されたもので、簡文館の最も古い部分(円形建物の東側)は、1928年(昭和3年)に図書館として竣工されました。



昭和31年ごろ



現在

高槻キャンパス

次世代教育施設を備えた 関西大学3番目のキャンパス

1994年(平成6年)、高槻市の丘陵地に開設。その広さは甲子園球場11個分にも及び、マルチメディア時代を先駆けるハイレベルな情報機能を備えています。



開設当時の高槻キャンパス (年史編集室蔵)

高槻ミュージズキャンパス

構想時は何と30階建ての 超高層ビルだった!?

当初は30階建ての超高層学舎で、幼稚園も開園される予定でした。しかし計画予定地が移転になり、規模を拡張した12階建て学舎へと変更。スペースの都合で幼稚園は開園されませんでした。



構想時の完成イメージ図

堺キャンパス

高校時代の校舎の面影を残す ノスタルジックなキャンパス

2010年(平成22年)に、旧堺市立商業高等学校・第二商業高等学校の校地を利用して開設した堺キャンパス。門やA棟など、所々に高校時代の面影を見ることができます。



堺市立商業高等学校・第二商業高等学校当時の様子



文学部3年次生

中村友彦さん

目標とされるプロスケーターでありたい。

巨大なハーフパイプをインラインスケートで滑り、トリック(技)の華麗さや難易度を競うアグレッシブインラインスケート バート(ハーフパイプ) 競技。中村友彦さんはプロのバート競技者として各国の大会に参戦し国際大会で上位入賞するなど、日本屈指のトップスケーターとして世界を舞台に活躍しています。

「インラインスケートを始めたのは5歳のとき。おもちゃ売り場で見かけたインラインスケートを買ってもらったのがきっかけでした」と語る中村さん。2年後には、現在のバート競技世界チャンピオン・安床エイトさん、弟のタケシさんのハーフパイプショーを見学し、その迫力に衝撃を受けて「僕もやってみたい」とハーフパイプ競技の世界へ。安床兄弟と同じチームに入り、10歳で国際大会に初出場し、14歳のときアマチュア世界大会で優勝。これをきっかけに中学生にしてプロ活動をスタートすると、海外の大会を中心にキャリアを重ね、現在は世界ランキング7位というポジションにつけています。

そんな中村さんが競技を行う際に心掛けているのは、常に全力で取り組むこと。「海外の大会やショーでは、言葉は通じなくても一生懸命滑ると会場が盛り上がるし、観客もすごく喜んでくれます。笑顔のお客さんを見ると、この競技をやっていて良かったなと思いますね」。

現在、世界ランキング3位以内を目指して日々の練習に取り組んでいる中村さん。将来は子どもたちから目標とされるようなスケーターになりたいそうで、「子どものころに僕が安床兄弟のショーに感動したように、僕の演技を見てこの競技に興味を持ってくれる人がいたらうれしいですね」とスケーターとしての夢を語ってくれました。



アグレッシブインラインスケート
バート競技

ハーフパイプ(大きなパイプを半分に切った形の施設)の中でジャンプを繰り返し行いながら、トリックと呼ばれる技を連続して披露。ジャンプの高さや技の難易度・完成度、コンビネーションなどで点数を競い合います。地上3メートル以上の高さで繰り出される技の数々は華麗でダイナミック。エクストリームスポーツを代表する競技の1つです。

次号では、中村さんからのご紹介で体育会重量挙げ部の尾崎都加さん(文3)が登場。お楽しみに!



Tomohiko Nakamura

学部・研究科トピックス

法学部／法学研究科

今こそ、硬派の読書に取り組みよう

このところ、企業の管理職など社会の中堅層を主な読者とする、いわゆる経済誌が「読書」特集を組んでいるのが目に付きます。そこでしばしば挙げられているのは、日本や世界の政治・経済・社会の構造と過程に関するかなり重厚な研究書レベルのものであり、中でも目に付くのは歴史的分析をベースとしたものです。よくいわれるように大変動期に生きているのだという人々の意識を反映した特集でしょう。学生諸君もこのような読書にじっくりと取り組んでほしいと思います。

(キャリアセンター主事 森本哲郎教授)

文学部／文学研究科 東アジア文化研究科

EUの学生との熱い交流

「EU-日本学教育研究プログラム」では、国際ワークショップとしてKUーワークショップとEUーワークショップを設けています。日本研究を学ぶEU諸国の大学生と文学研究科の学生が合宿形式による研究報告会を行います。今年は明日香村、六甲山で行い、学園祭のころにドイツ・デュッセルドルフ大学でも開催されます。毎回、日本研究の多様性を実感させるテーマで活発な議論が交わされています。グローバル化社会を生きている上で、国際ワークショップは大きな自信につながるものと確信しています。

(長谷洋一教授)

経済学部／経済学研究科

経済学部国際化プログラム

経済学部では、独自の短期留学プログラムとして「経済学部国際化プログラム」を実施しています。このプログラムは行き先別に4つのメニューがあり、その一つとして、夏休みの約1カ月の間、シンガポール国立大学において学生が短期留学に行ってきました。期間中は、英語の講義、英語での経済学の講義、現地企業訪問、マレーシアへの1泊2日の研修旅行、現地関大OBとの懇談、と学生たちは充実した日々を過ごしました。1カ月の海外生活を経て、学生たちは少したくましくなっています。

(座主祥伸准教授)

各学部・研究科のさまざまな活動や取り組みなど、トピックスや皆さんへのメッセージをお届けします。

商学部／商学研究科

海外ビジネス英語プログラム

商学部独自の英国短期留学プログラムには、夏休み1カ月の入門編プログラム「BestA」、夏休み後半から冬にかけての「初級留学」、秋学期試験終了後から夏休み前までの「中級留学」の3種類があります。このたびBestAに参加した学生たちは4週間のプログラムを無事に終えて帰国し、現在は初級留学の学生たちが15週間プログラムに挑戦中です。英語力の向上だけでなく、「内向き」といわれる学生の目を「外」に向けさせることを目標として、商学部ではプログラム内容の見直しを毎年重ねています。

(杉本真志教授)

社会学部／社会学研究科

秋の学術講演会に参加しよう!

社会学部では、秋学期学術講演会「幸せな社会とは?心理学的探求」を11月13日(火)3時限・第3学舎A201教室で開催します。ヴァージニア大学心理学部教授 大石繁宏氏を講師に招いて、社会や人々の「幸福感」とは何か?をテーマに、心理学・社会学・経済学における最先端の幸福感についての研究成果をご紹介します。社会学部生の皆さん、また他学部生の皆さんもぜひご参加ください。部活やアルバイト、就活などで多忙な日々の合間に、一度ゆっくりと「幸福感」について考えてみませんか?

政策創造学部／ガバナンス研究科

政策創造学部 新学科開設

政策創造学部では、これまでの政策学科に加え、国際アジア法政策学科(Department of Global and Asian Legal Policy Studies)を2013年4月に開設します(入学定員は政策学科270人、国際アジア法政策学科80人)。当学科は、多様な歴史と文化を前提とするそれぞれの地域、国家、国際社会の公共政策、法政策および社会的諸事情を学ぶことにより、国際的通用力を有する人材を育成することを教育研究目標に掲げています。学生が主体的かつ積極的に学ぶことを期待します。

(学部長 小西秀樹教授)

外国語学部／外国語教育学研究科

未来と向き合う

1年次生は迫るスタディ・アブロードの準備に余念がありません。すでにそれぞれの渡航先も決定しており、複数回にわたる説明会を終えて、海外での学習をいよいよ身近な現実として実感していることでしょう。その留学中の2年次生は世界の各地で貴重な経験を積み、頑張っているようです。今秋から3年次生対象の専門演習も始まり、次年度のゼミへと結び付くものです。そして、1期生となる4年次生は、卒業に向けてプロダクト制作に精を出しています。懸命に研さんしてきた成果が問われるところです。

(鼓宗教授)

人間健康学部

社会福祉士になるための実習始まる

福祉と健康コースでは社会福祉士資格を取得するための科目を開設しています。その1つに相談援助実習があります。ソーシャルワーカーとしての力を身に付けるため、3年次生53人が、福祉事務所、社会福祉協議会、病院、高齢者・障がい者・児童の福祉施設など、50力所ほどの福祉の現場に出掛けています。180時間(23日間)の実習期間に、教員も分担して巡回指導を行います。1期生たちは、先輩がいらないという苦労がありながらも、自分たちが社会福祉の実習の道筋を開拓するという意気込みで頑張っています。

(黒田研二教授)

システム理工学部・環境都市工学部・化学生命工学部／理工学研究科

理工系3学部・理工学研究科の秋

秋の入り口とは名ばかりの残暑の厳しい9月4日に、第4学舎で北陽中学校連携プログラムが開催され、中学2年生約120人が理工系3学部を訪れました。中学校での事前学習に取り組んだ上で本学を訪問し、22の研究室に分かれて研究室見学、実験の見学や体験、大学院生・教員との交流が行われました。9月19日には中学校で事後報告会が行われ、大学からも教員や大学院生が参加しました。中学生の皆さんの目に、理工系学部の研究室での活動はどのように映った

ことでしょう。理工系学部の教職員・大学院生の皆さん、北陽中学校の教職員の皆さん、ご協力ありがとうございました。学部運営面では、10月より学部執行部体制が改まり、教授会に新しい風が吹き込まれつつあります。このように、学生の皆さんと教職員の皆さんが共に新たな気持ちで迎える秋学期となりました。秋は勉強や研究が深まりを見せ、また、読書にもってこいの季節です。11月1日(木)から4日(日)にかけて統一学園祭が開催され

ますが、文化の薫りの高いものとなることを期待します。夏季休業期間中に、第4学舎2号館教室棟の耐震・リニューアル工事が行われました。この工事では1〜2階が対象とされ、耐震性が高められました。また、教室内の机・椅子などの設備が新調され、女性用トイレの増設も実現されました。また、冬季休業期間中には、同建物の3〜5階を対象とし、同様の工事が行われる予定です。

(化学生命工学部 幸塚広光教授)

Attention 大学からの重要なお知らせ



理事長 池内啓三氏



常務理事 永田眞三郎氏

新理事会が発足

任期満了に伴う役員の改選により、10月1日開催の臨時理事会において、理事長に池内啓三氏、常務理事に永田眞三郎氏が選任されました。

また、常任理事には、岡田弘行氏、木谷晋市氏、五藤勝三氏、寺内俊太郎氏、吉田栄司氏が選任されています。

任期は平成24年10月1日から4年間で。

専門職大学院トピックス

会計専門職大学院

2013年度入学生を対象にコース制を導入します

会計専門職大学院では、これまでも修了生の多様なキャリアパスに積極的に対応してきましたが、より一層の体系化を図るため、2013年度入学生を対象として、新たにコース制を導入します。具体的には、①公認会計士などの会計専門職を目指すPA(Professional Accountant)コース、②会計の知識を基礎に企業人や公務員として活躍することを目指すPAIB(Professional Accountant in Business)コース、③論文作成能力および研究能力の高い会計専門職を目指すRP(Research Paper)コースの3コースを設置します。コース制の導入により、公認会計士などの会計専門職だけでなく、企業人や公務員として活躍することを目指す皆さんにも、将来役立つ知識をよりスムーズに提供していきたいと考えています。詳しくは会計専門職大学院ウェブサイト参照してください。<http://www.kansai-u.ac.jp/as/>

併設校トピックス

関西大学北陽高等学校

陸上競技部 宮田弘輝さん 全国制覇!

関西大学北陽高等学校3年生の宮田弘輝さんが、8月2日新潟県東北電力ビッグスワンスタジアムにて開催された、平成24年度全国高等学校総合体育大会 男子三段跳の部において、悲願の全国制覇を果たしました。全国的な知名度はなかったものの、3年生になり飛躍的な成長を遂げた宮田さん。予選を1組2位で通過した勢いをもって臨んだ決勝戦では、大接戦の末15m42cmの好記録で初優勝を果たしました。



(北陽中学校教諭 陸上競技部顧問 米川和宏)

関大トピックス

平成24年度「大学間連携共同教育推進事業」に
関西大学と津田塾大学との連携取組が採択

文部科学省平成24年度「大学間連携共同教育推進事業」に、関西大学と津田塾大学との連携取組として申請した「〈考え、表現し、発信する力〉を培うライティング／キャリア支援」が採択されました。

1. 名称

「〈考え、表現し、発信する力〉を培うライティング／キャリア支援」

2. 期間

平成24年度～28年度

3. 概要

学士課程教育の質的転換と有為な人材育成のために欠かせない〈考え、表現し、発信する力〉を、ライティングセンターを中核にした総合的なライティング／キャリア支援体制の構築を通して培います。そのために、これまで学生のキャリア形成を重視したライティング支援に取り組んできた関西大学と津田塾大学、および多様なステークホルダーが密接に連携して、日本の教育環境に適した支援体制を整備し、全国に普及させることを目指します。

具体的取組としては、(1)ライティングセンターの機能拡張による支援体制の充実、(2)ライティングに特化したeポートフォリオシステムの開発、(3)客観的な評価指標の確立、(4)教育カリキュラムとの密接な連動、(5)多様な社会連携を実施します。



文章表現フロンティア講座の様子

第32回「地方の時代」映像祭2012を開催

11月17日(土)～22日(木)の6日間にわたり、吹田市、関西大学、日本放送協会、日本民間放送連盟、日本ケーブルテレビ連盟の5者で共同主催される第32回「地方の時代」映像祭2012が千里山キャンパスで開催されます。「地方のこえ、地域のこころ」をテーマに1980年から開催され、2007年より関西大学に移されました。第32回の今年は「ともに生きる、地域の未来」をサブテーマに掲げ、大震災からの復興を含め「生きる」ということをテーマにした作品の上映も予定しています。



昨年度の贈賞式の様子

システム理工学部・倉田純一准教授が
被災地で出張講義を実施

昨年9月に関西大学と石巻市教育委員会が連携・協力して被災地の小学校への理科教育支援として出張講義を実施したことに引き続き、今年も9月5日から7日までの3日間、システム理工学部・倉田純一准教授が宮城県石巻市の3つの小学校で理科の実験を行いました。講義では、顕微鏡を使った観察や筋肉の動きと腕の動きの理解、ヒトの消化の実験などが行われ、生徒たちは実験を通して理科の楽しさをあらためて感じていました。



講義の様子

文化会落語大学、福井県出張寄席を開催

9月13・14日の2日間、福井県内の4つのデイサービスセンターで、文化会落語大学所属の5人による福井県出張寄席が開催されました。福井県では、県政施策の1つに掲げる「健康長寿」に関連して、「笑い」と「こころとからだ」に関する事業を展開しており、今回の出張寄席はこれらの県政施策に関連した連携事業の一環として、福井県から関西大学への依頼により実現しました。当日は各寄席とも元気な笑い声に包まれました。



寄席の様子

ロンドンパラリンピック陸上競技で、
卒業生の和田伸也さんが銅メダル

9月7日、ロンドンパラリンピックで行われた陸上男子5,000メートル(視覚障害)で、本学卒業生の和田伸也さんが銅メダルを獲得しました。

和田さんは2000年に社会学部を卒業、2002年に社会学研究科を修了され、財団法人大阪府視覚障害者福祉協会に就職。在学中は社会福祉学を学ばれていました。

ロンドンパラリンピックでは、5,000メートルの他に1,500メートルとマラソンにも出場し、マラソンでは5位入賞を果たしました。4年後のリオデジャネイロパラリンピックでは、最も力を注いでいるマラソンでのメダル獲得を目指し、日々練習に励んでおられます。



関大人

よもやまばなし

四方山話 ◆「天竺と仏像彫刻と講義」

文学部 野村幸正 教授



古の人は天竺に憧れて苦難の道をたどった。今の宇宙旅行にも匹敵する大冒険であった。それだけ天竺への思いが強かったのであろう。現在ではわずか半日の行程であるが、私の思いもそれに近い。インドの魅力は語り尽くせないが、中でも寺院のあまたの像には心を奪われる。気に入った像を見つけては、帰国後その像を彫っている。もちろん私の好みに合わせて整形はするが…。私の仏像彫刻の修行は四半世紀にも及ぶ。熟達心理学の構築に向けて自らに課した修行であるが、時

間をつぎ込んだ割にはまともなものが彫れない。仏師と称するにはまだ刀ひと削り分の違いを体得し得ないのである。それは言葉で説明しても分からない。身体が感じ、刀が自然に動いて初めて仏像に魂が入る。さて、私の講義であるが、しょせん言葉遊びである。ただ、そこから学生が刀ひと削り分の持つ意味の一端でも感じ取り、また自分の生きる世界を広げる契機になれば、講義は学生によって魂を入られたことになる。

編集後記

『関西大学通信』がリニューアルして初めての学生広報スタッフ企画。私は学園祭実行委員長の谷洋佑さん、ワカモノデカラブプロジェクトの久保田勇次さんに取材をしました。初めての取材で緊張しましたが、皆さんの学園祭に懸ける思いやプロジェクトに対する熱意を聞くことができ、非常にいい刺激になったとともに、もっと相手の言葉を引き出せるような「質問力」を身に付けていきたいと感じました。今年の学園祭のテーマは「感謝祭 to ALL…。」今まで学園祭に来たことがある人もない人も、ぜひ足を運んでみてください。(学生広報スタッフ 社会学部2年次生 小林苑香)

今月の表紙：小野涼平さん(文2)、甲斐正樹さん(政策2)、加茂田優さん(経2)、小嶋佳保里さん(社2)、鈴木駿介さん(外3)、谷洋佑さん(化生3)、中本浩大朗さん(商3)、東尾正樹さん(シス理2)、松本龍樹さん(情2)、宮森祐司さん(経3)、本屋敷孟さん(法2)、八木里菜さん(人2)、山邑晃央さん(安全2)

KANSAI Univ. NEWS

発行日：2012年10月29日(年9回発行) 発行：関西大学広報委員会 〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35 電話：06-6368-1121(大代表)

